

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/ (分野)		授業形式	
EU41D103		学校実践実地研究 (Field Study of School Practice )						実習科目		対面	
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態	
選択必修		5	2	教育学研究科	通年	他	日本語			複数(共同)	
担当教員	氏名 内田昭利, 柴田康弘, 藤村晃成, 長谷部英樹, 後藤竜太, 高橋徹弥, 廣田秀俊 E-mail a-uchida@oita-u.ac.jp 内線 6135										
	目的 : 実習を通して、研究課題に関連する授業を中心とした授業実践等を行い、自らの研究課題について考察を深め、探究方策を具体的に検証する力を養う。 学校実践実地研究 と同じ実習校（現職院生は現役校、学卒院生は連携協力校）において、学卒院生は25日間（前期10日間、後期15日間）、現職院生は200時間の授業実践や省察等を行う。実習校では、実習担当教員の指導のもと、自らの研究課題についての具体的な探究方策を授業実践等において実施する。また、教育実践課題研究 での省察を通して、授業実践等の経過および結果に関する分析を通じて教育的実効性を検証し、その成果と課題をまとめる。 学卒院生は、上記に加え学習指導以外の教員の仕事を理解するため、実習担当教員の指導のもと、学習指導補助、生徒（生活）指導補助、学級事務補助、教室環境整備補助等を行う。										
具体的な到達目標											
目標1	「教育実践研究」における自らの研究課題に迫るための具体的な探究方策を学校現場で実践することができる										
目標2	実践を経過および結果に関する分析と考察を通じて検証することができる										
目標3											
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											
各DPへの関連度（計10）											
10											
授業の内容											
1	【事前指導】										
2	・学校実践基礎研究等の成果や課題を踏まえた「研究計画書」の作成を通して、学校実践実地研究 における課題意識の明確化を図る										
3	【実習校における実習(週5日間×3週間)】										
4	・実習担当教員の指導のもと、実習校の年度目標や研究テーマ、教員組織、教育課題等を把握する。										
5	・実習担当教員の指導ならびに大学教員の巡回指導のもと、授業や生徒指導等の学校教育活動全体の観察の仕方を理解する。										
6	・実習担当教員の指導のもと、観察や授業実践等を通じて、実習校の子どもたちの状況を理解する。										
7	・実習担当教員の指導のもと、自らの研究課題に即した観察等を行う。										
8	・実習校における実地観察・体験を通じ、中学校の現場における教育活動に対する理解を深めるとともに、現状の成果と課題を把握する。										
9	【事後指導】										
10	・省察科目「教育実践課題研究 」を通して、25日間の実地研究の成果及び課題点を明確化する。										
11	・実地研究の省察を行った上で、成果報告を行う。										
12	・自らの研究課題の探究方策を構想する。										
13											
14											
15											
ラ イ ニ ン グ ア ク テ ィ ブ グ ル	A: 知識の定着・確認 B: 意見の表現・交換 C: 応用志向 D: 知識の活用・創造	実習	工 そ 夫 の 他 の	LMS (Moodle) の活用							
授業時間外 学修の内容 と想定時間		準備学修		実習計画(13h), 実習準備 (50 h)							
		事後学修		実習日誌 (50 h)							
		想定時間合計		113							
教科書		必要な資料等は大学より配付する。									
参考書		必要な資料等は大学より配付する。									

